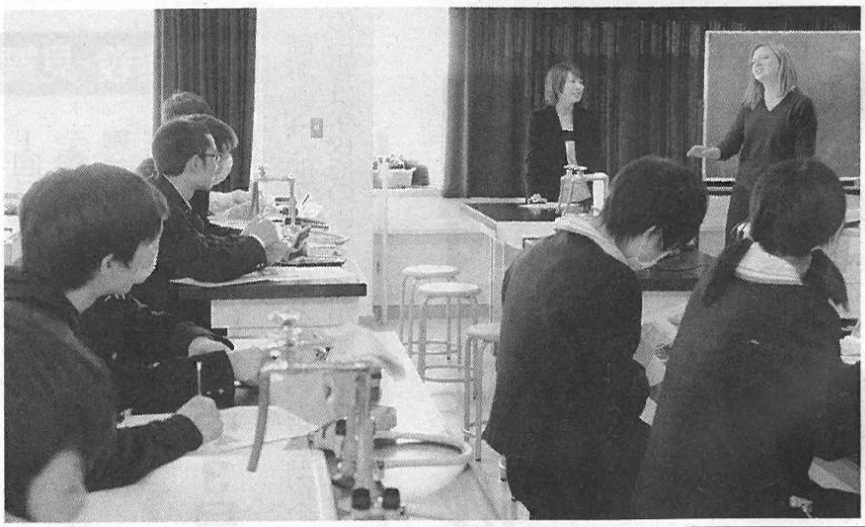
平成29年）1月31日 火曜日　夕刊 桐生タイムス　（昭和21年2月8日第三種郵便物認可）

ネーティブから英語講義

理化学研の米国人招く　海外研修控えた桐高生22人



3月の米国研修に参加する県立桐生高等学校（田口哲男校長）の生徒が28日、分析化学の博士で理化学研究所フェローのホリー・ウォレンさんから自身の研究生活について、英語で説明を受けた。

ウォレンさんは米国ミネソタ州出身。地元のハムリン大学で化学を学んだ後、アイオワ州立大学で分析化学を修め、現在はフェローとして理化学研究所のKim表面界面科学研究室（SISL）で研究に従事している。

……

米国からの若手研究者と英語でやりとりする桐生高校の生徒たち

今回の試みは、優秀な若手外国人研究者を講師として高校に派遣する日本学術振興会の「サイエンス・ダイアログ」プログラムを活用したもの。

講義でウォレンさんは自身の生い立ちや、科学者になった経緯、現在取り組んでいる研究の概要などを、画像を使いながら英語で説明。

流ちょうな英語に必死にくらいつく

2年生3人、1年生19人の計22人は、事前に配布されたレジュメを眺めながら、流ちょうな英語に必死にくらいついた。

講義の後には英語で質問も。「研究に集中するときは、知らぬ間に夜が明けるときもある」など若手研究者が伝える研究生活に、興味津々の様子だった。

生徒たちは3月12日から18日まで、米国サンディエゴなどで研修を重ねる予定だ。